

今こそ、君たちに「学問のすすめ」

学校長 横山 豊



先日、本屋で立ち読みをしていたところ、世界の名言や日本の名言が集めてある本の中に次のような言葉を見つけましたので、思わず購入してしまいました。

「人は勉強と仕事で差がつくものである。
勉強は人のため幸福を生む母のごとし。
天は万物を人ならずして、
働きに与うるものなり。」

早矢仕有的(はやしゆうてき)

とても印象に残る苗字とお名前ですね。

早矢仕有的^{※1}は、日本で最初の株式会社である丸善の創業者であり、この言葉は彼が当時語った創業理念だそうです。この文を読んで福澤諭吉^{※2}の「学問のすすめ」を連想する人が多いようですが、私もまたそうでした。「学問のすすめ」の中で有名な、「天は人の上に人を造らず。人の下に人を造らず」は、最後に次のような文で結ばれています。

「ことわざに『天は生まれながらに地位や富を与えられることはなく、その働きに応じて与えられるものだ』というのがある。このように、人は生まれながらにして、貴賤や貧富の差はない。ただ学問に身を入れて物事をよく知る者は偉く裕福になり、学がない者は貧しく地位も低い者となるのです」と。

この2つの文はよく似ています。というのも、実は早矢仕有的は福澤諭吉の当初からの弟子だったからです。

うろ覚えですが、私が小学生の頃、年に数回だけでしたが、住んでいた関市から岐阜市に、両親に連れて行ってもらいました。商店街で本屋などに立ち寄った後で、丸物というデパートに入り、その中のおもちゃ売り場を通り過ぎ、レストランで日の丸の旗が立ったお子様ランチを食べて、屋上のミニ遊園地のような場所で遊びました。小さかった頃の、とても

わくわくした楽しかった記憶の1コマです。

さらにこの本には、次のような本の著者のやはり小さな頃の思い出話も添えてありました。

……日本橋の丸善で洋書を買って屋上に上がったところで、ハヤシ(早矢仕)ライスという食べ物で少し西洋に近づいた知的な気分になった。

気が付きましたか？これが現在の「ハヤシライス」の名前の起源です。「ハヤシ(早矢仕)ライス」なのです。

さて、「学ぶ」ということは知的な世界を知ることであり、今の日本では「学ぶ」という努力の継続で、自らの力で可能性の扉を開け、それぞれの人生を手に入れることができます。

本校のモットーは「大志・継続・実現」です。

中学、高校時代は大いに本和館で良書をたくさん読み、知性を磨きましょう。そして、学校生活において、しっかりと授業を受け、確かな学力を身につけ、来るべき大学入試において現役合格を勝ち取ります。大学も終え、就職。その後の人生においても、常に好奇心を持ち、学び続けることで、より豊かな人生を手に入れることができるのです。

「まさしく、勉強は人のため幸福を生む母のごとし。」



※1 早矢仕有的(はやし ゆうてき) [1837-1901]

美濃国武儀郡笹賀村(現在の岐阜県山県市笹賀)に生まれた。明治期の日本の実業家、医師、官吏。丸善、横浜正金銀行の創業者として知られる。

※2 福澤諭吉(ふくざわ ゆきち) [1835-1901]

幕末から明治期の日本の啓蒙思想家、教育家。慶應義塾の創設者。